

教師ノート

週課	第三年 第六課 第四週
単元	サムエル記・2
テーマ	神の使命のために必要なものは、神に求める
タイトル	知恵をいただいたソロモン
テキスト	I 列王記2:1-12、3章
参照箇所	II サムエル7章
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	箴言9:10 or ヤコブ1:5

AG 日曜学校教案参照箇所

□導入

「ダビデは30歳で王となり、40年間王であった」と書いてあります。今日のお話は、ダビデが死ぬ間際のところから始まります。

□ポイント1 ソロモンは王になりました(2:1-12)

ダビデはもう歳をとっていました。そこで、彼は息子のソロモンに王位を継承することにしました。ダビデは、ソロモンに言い聞かせました。「私はもう死が近い。ソロモン、あなたはイスラエルの王として、強く、男らしくありなさい。主のみことばに従って、主の道を歩みなさい。それは、あなたが何をしても、どこへ行っても、栄えるためです。そうすれば、神さまは約束どおり、私たちの子孫とイスラエルを祝福してくださいませ。」

じつは、ダビデが王になった頃、こんなことがありました(II サムエル7章)。ダビデは、「自分は立派な王宮に住んでいるのだから、神さまのために、すばらしい神殿を建てたい」と考えました。しかし、神さまは「神殿を建てるのはダビデではない。ソロモンが後継ぎになって神殿を建てるのだ」と言われました。

やがて、40年間イスラエルを治めた正義の王ダビデは死に、息子ソロモンが父の王位につきました。

□ポイント2 ソロモンは知恵を求めました(3:1-15)

ある夜、神さまは、ソロモンの夢の中に現れてくださいました。そして、ソロモンに「あなたに何を与えようか。欲しいものがあつたら私に願いなさい」とおっしゃいました。

ソロモンは何と答えたでしょう？ 彼は、「神さまは、私をイスラエルの王にしてくださいましたが、私はまだまだ未熟な者です。神さまが与えてくださったこの国を、正しく治めることができるように、知恵をください。そうすれば、善悪を判断し、この国の多くの人々を、正しく裁くことができますから」と言いました。

ソロモンの願いは神さまの御心にかないました。神さまは、ソロモンにおっしゃいました。「あなたは自分のためのもの(長寿・富・敵のいのちなど)を求めず、むしろ、神と人々のために、善悪を判断する知恵を求めたので、今、私はあなたの言ったとおり、それを与えよう。」神さまはソロモンの願いを喜ばれたのです。そして、さらにソロモンが願わなかった富と誉れと長寿も与えてくださいました。神さまは「あなたの生きているかぎり、王たちの中であなたに並ぶ者はひとりもないであろう」とおっしゃいました。

□ポイント3 ソロモンは神さまからいただいた知恵で国を治めました(3:16-28)

神さまからいただいた知恵がどんなにすばらしいものであつたか、よくわかるできごとがありました。

ある日、2人の女の人が、ひとりの小さな赤ちゃんを連れて、ソロモンのところに来ました。ひとりの女の人が訴えました。「王様、私とこの女とは同じ家に住んでおります。私が子どもを産んで3日たつと、同じ家で、この女も子どもを産みました。ところが、夜の間に、この女の産んだ子が死にました。この女が

自分の子の上に乗ってしまったからです。そこで、この女は夜中に起きて、私が眠っている間に、こっそり私の赤ちゃんを取って、死んだ赤ちゃんを取り替えたのです。ですから、生きているのが私の赤ちゃんなのです！」しかし、もうひとりの女は「いいえ、生きているのが私の子で、死んでいるのはあなたの子です。」と訴えています。こうして、2人の女たちは、ソロモンの前で、言い争っていました。

どうやって、解決すればよいのでしょうか？ソロモンは、「剣をここに持って来なさい。」と命じた。そして、「生きている子どもを二つに断ち切り、半分をこちらに、半分をそちらに与えなさい。」すると、ひとりの女の人は、あわてて言いました。「王様、その子を殺さないでください！どうか、その生きている子をあの女にあげてください！」しかし、もうひとりの女は、「それを私のものにも、あなたのものにもしないで、断ち切ってください。」と言いました。

そこで王は落ち着いて、結論を言い渡しました。「生きている赤ちゃんを初めの女に与えなさい。決してその子を殺してはならない。彼女がその子の母親なのだ。」本当の母親は、自分の赤ちゃんが刀で切られるのを、ゆるすわけがありません。ですから、「殺さないで」と言ったお母さんが、本物というわけです。

ソロモンがこんなびっくりするような方法で、難しい問題を解決できたのは、神さまからいただいた知恵のおかげです。イスラエルの人々はみんな、このようなソロモンの知恵をみて、王を尊敬しました。

□結論 ソロモンは神さまから知恵をいただきました

□適用（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

神さまのご用をするために必要なものは、神さまに求めましょう。本当に与えられます。

みなさんはいつも、神さまにどんなお願いをしていますか？ソロモンは、神さまから「何が欲しい？」と聞かれたとき、神さまに喜ばれる王となるために「善悪を判断する知恵」を求めました。その願いは神さまのみこころにかなって、ソロモンは本当にスゴイ知恵をいただきました。神さまは、ソロモンを王様に任命しましたが、同じように、あなたも神さまから大切な役割を任命されています。あなたの役割は何でしょうか？（家族や友だちに福音を伝える・リーダーになる・大きな声で賛美する・牧師・伝道師・社会の役に立つ仕事をする、など）そのために必要な能力は何でしょうか？（知恵・愛・学力・やさしさ・お金、など）それを神さまに求めましょう。必ず神さまが与えてくださいます。神さまは、私たちのため（利己的・ワガママな願い）ではなく、神さまのためのお願いを喜んで必ず聞いてくださいます。

聖書を読んで、祈りましょう。知恵は神さまからいただくものです。

何でも知っている神さまに比べて、私たちの知恵は足りません。神さまは最高・最善のをご存じです。それを教えてもらいましょう。また聖書には「主を恐れることは、知恵の初め」（詩篇111:10、箴言9:10など）と書いてあります。神さまを信じるのが、知恵の出発点なのです。神さまなしに、正しい判断はできません。また、「主のことばを退けたからには、彼らに何の知恵があろう」（エレミヤ8:9）とあるように、本当の知恵は、聖書に聞き従うことなのです。幸せに生きる知恵が欲しいと願う人は、聖書を読んで、祈りましょう。